

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はやや弱含んでいる。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢はやや悪化しつつある。

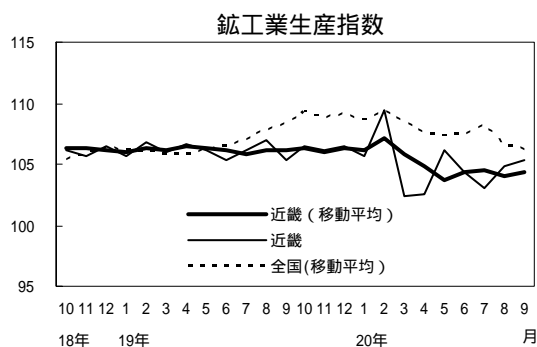
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年8月）	今回（平成20年11月）	
景況判断	回復の動きに足踏み	弱含み	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	
雇用情勢	改善の動きに足踏み	やや悪化しつつある	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産はやや弱含んでいる。

一般機械は、ガスタービンや半導体・フラットパネル製造装置が好調だったことから、増加している。化学は、プラスチック樹脂の生産水準が低下していることなどから、減少している。食品・たばこは、飲料が低調だったことから、減少している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池、太陽電池モジュール、エアコンが好調だったことから、増加している。鉄鋼は自動車向け鋼材等で生産水準が低下していることから、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。  
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

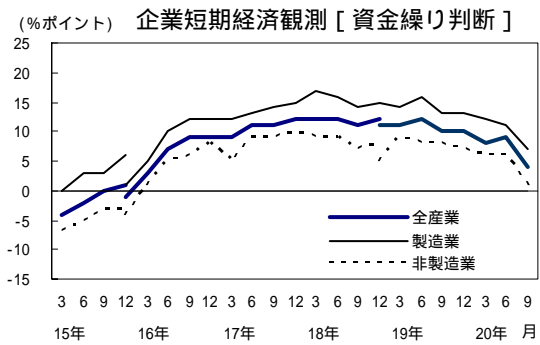
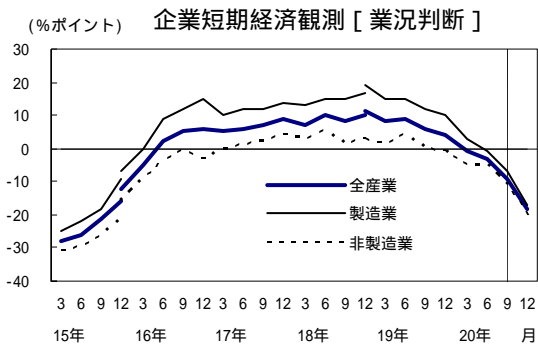
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期		
一般機械	17.0	5.7	2.1	1.4	9.2		
化学	14.5	1.2	4.6	6.6	7.6		
食品・たばこ	9.1	0.6	1.7	0.5	5.5		
電気機械	8.5	5.6	8.0	4.5	8.0		
鉄鋼	7.5	0.6	1.0	0.7	2.0		
鉱工業	100.0	1.4	0.1	0.6	0.2		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7~9月期は速報値。

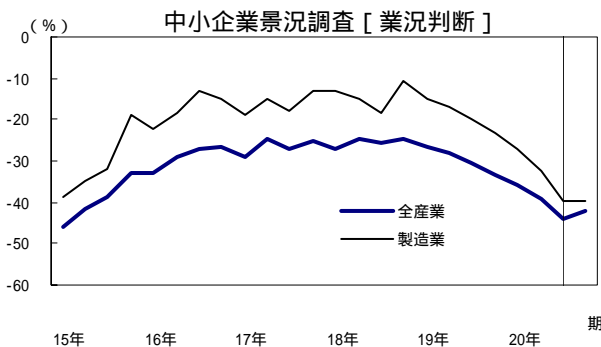
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年12月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

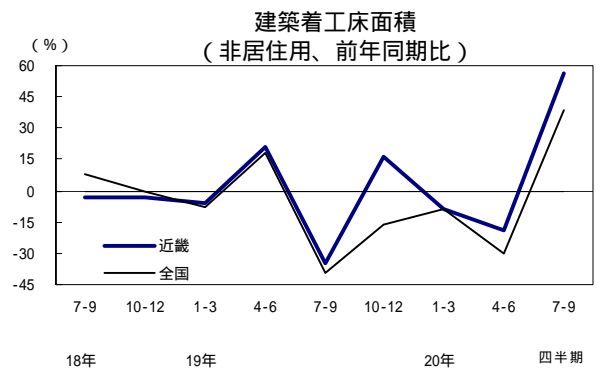
「3か月ほど前から、メーカーにおける増産計画がかなり修正され、延期が増えている(電気機械器具製造業)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	15.3	8.9( 0.1)
製造業	12.0	6.0( 1.4)
非製造業	19.1	11.9( 1.7)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

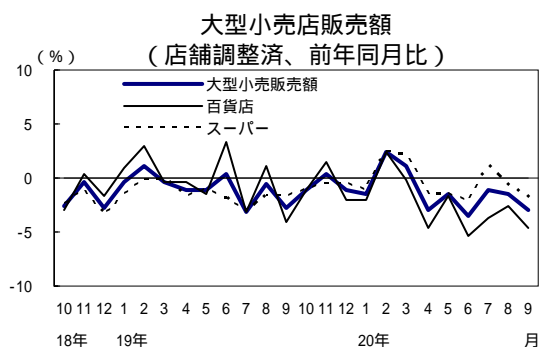
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、中元やクリアランスセールの上上が伸び悩んだことに加え、婦人・子供服及び美術・宝飾品が低調だったことから、前年を下回った。8月は、婦人服を中心に秋物衣料の立ち上がりが低調だったことから、前年を下回った。9月は、婦人服や身の回り品が買い控えられたことに加え、宝飾・貴金属などの高額商品が低調だったことから、前年を下回った。なお、近畿百貨店協会によると、10月の近畿地区の売上高は、前年同月比で6.8%減となっている。

スーパーは、猛暑や内食志向などにより飲食料品が好調だったものの、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

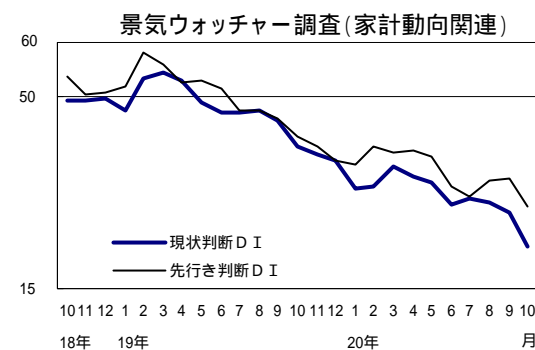
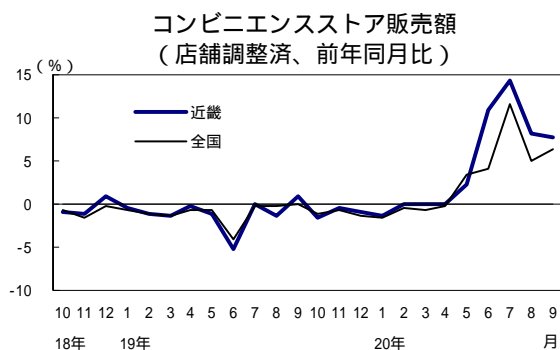
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「円高や株価急落など、景気のますます悪くなる要素が多く、来客数や販売台数はここ数か月で急速に落ち込んでいる(乗用車販売店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.7	0.5	2.7	1.8
百貨店	0.7	0.1	4.0	3.6
スーパー	0.7	1.0	1.7	0.5
コンビニ	1.0	0.5	4.4	10.1
景気ウォッチャー	39.7	34.8	33.4	30.4

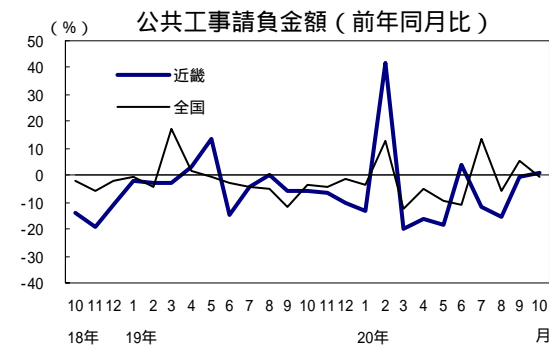
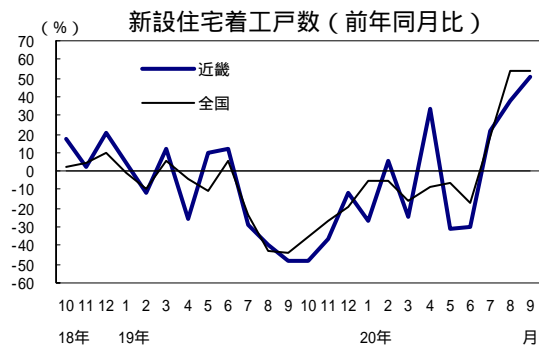
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

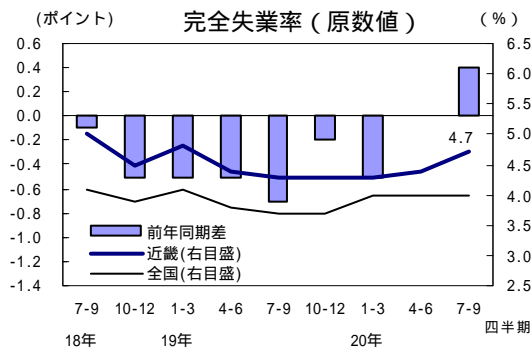
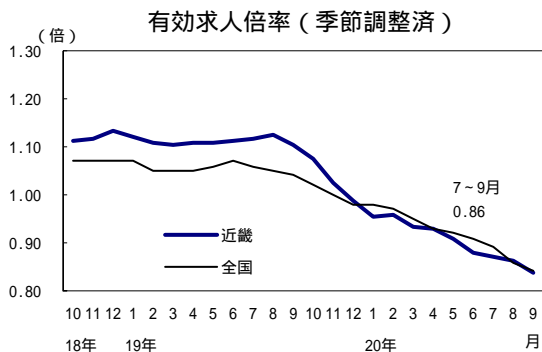


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はやや悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

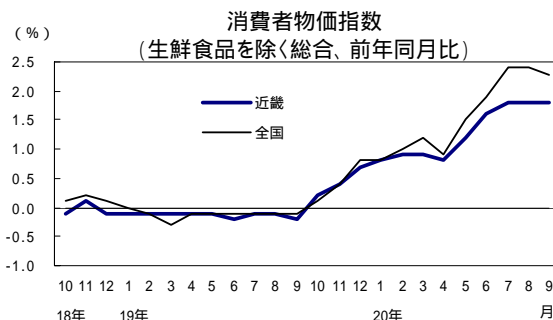
「新規求職者のうち、事業主都合の離職者が2か月連続で前年比2けた増となっている(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数 (前年比)	952 6.1	1,014 10.2	930 5.1	974 8.5	352 8.0
負債総額 (前年比)	2,500 24.3	2,490 11.1	3,007 43.0	2,461 59.1	1,033 27.8



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・住宅ローン減税の拡充が検討されているが、方針が決まるまでの様子見や株価急落による消費マインドの低下で、モデルルームへの来場の動きが止まっている(住宅販売会社)。

<先行き>

・輸出が落ち込んでいる反面、輸入関係の企業は好調である。特に、EUや北米の環境技術や医療機器を扱っている企業は、今後も伸びていく(出版・印刷・同関連産業)。

